

「不況下の伸長」探る

京で中小企業全国研究集会 先進の実践例など報告



厳しい環境を生き抜く経営の在り方を熱心に議論する中小企業経営者たち（京都市左京区・国立京都国際会館）

全国の中小企業経営者が共通の経営課題を話し合う第40回「中小企業問題全国研究集会」が11日、京都市左京区の国立京都国際会館で開幕した。47都道府県の中小企業家同友会の

会員ら約1800人が、長引く不況やグローバル時代を生き抜く経営の在り方をめぐり熱心に討議した。中小企業家同友会全国協議会の主催で、京都開催は10年ぶり。

中国市場の開拓や付加価値づくり、企業風土の醸成など18のテーマ分科会で、先進的な実践発表を受けて10人前後でグループ討議した。九条ねぎを生産加工

する農業生産法人こと京都（京都市伏見区）の山田敏之社長は、京野菜人気を生かしてラ

ママ・サービス（中京区）の森本富美子会長が「何のため仕事をしているかを常に問うことが就労意欲や使命感の向上につながる」とアドバイスした。

中国の商習慣に対応して販路を広げる東京の情報システム会社や、雇用を守りながらホテル、旅館を再生して急成長する大分の運営会社などの報告もあった。参加者は不況下で売り上げを伸ばす方策や市場の創出、ぶれ

ない経営姿勢などについて議論を深めた。集会は12日も開かれ、全体会合や分科会報告の後、不況克服に向けて中小企業経営者のリーダーシップ発揮を呼び掛けるメッセージを確認し、閉幕する。（柿木拓洋）